

発展練習問題 2-4

<解答>

材		料	
〔 前 月 繰 越 〕 (16,000)		〔 買 掛 金 〕 (9,000)	
〔 買 掛 金 〕 (108,000)		〔 仕 掛 品 〕 (132,300)	
〔 現 金 〕 (43,250)		〔 製 造 間 接 費 〕 (1,730)	
<div style="border-top: 1px solid black; margin-top: 5px;"></div>		〔 次 月 繰 越 〕 (24,220)	
<div style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black; margin-top: 5px;"></div>		<div style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black; margin-top: 5px;"></div>	
(167,250)		(167,250)	

【解説】

材料の購入と消費に関する問題だが、基本練習問題と比べた場合、仕訳を飛び越して勘定記入が問われている点と、材料の返品（4月10日）及び棚卸減耗損が含まれていて計算が複雑になっている点で難易度が上がっている。勘定記入が問われているので、取引ごとの仕訳を考えることがまず必要になる。

4月9日 材料の購入

(借) 材 料 108,000 (貸) 買 掛 金 108,000・・・(ア)

運賃は先方負担のため運賃2,160円は材料費に含まれない点がポイントになる。簿記の問題では、運賃は購入者が負担するケースが多いが、本問のようにサービスの一環として販売者が負担することもある。

4月10日 材料の返品（4月9日購入分）

(借) 買 掛 金 9,000 (貸) 材 料 9,000・・・(イ)

商業簿記の場合と同様に、材料を返品した場合には、返品相当額（@90円×100kg）について購入時と反対仕訳を行う。

4月17日 材料の購入

(借) 材 料 43,250 (貸) 現 金 43,250・・・(ウ)

4月22日 材料の消費

(借) 仕掛品 132,300 (貸) 材 料 132,300・・・(エ)

材料Dの実際消費単価は先入先出法で計算していることから、消費された材料1,500kgの内訳は次の通りであり、これらの合計が材料の消費額となる。返品分100kgに注意が必要となる。

- ・前月繰越分 @80円×200kg=16,000円
- ・4月9日購入分 @90円×1,100kg=99,000円
- ・4月17日購入分 @86.5円×200kg=17,300円 ※ $43,250 \div 500 = 86.5$ 円/kg

4月30日 次月繰越

前月繰越(200kg)と4月中に購入した材料Dの購入量(1,700kg-100kg)の合計から当月の材料D消費量(1,500kg)を引くと、月末時点では材料Dは4月17日購入分の300kgが残っているはずだが、実際には材料Dは280kgしかなく、棚卸減耗損20kgが発生している。

- ・材料Dの月末有高 @86.5円×280kg=24,220円
- ・棚卸減耗損 @86.5円×20kg=1,730円

(借) 製造間接費 1,730 (貸) 材 料 1,730・・・(オ)

(ア)～(オ)の仕訳を転記し、前月繰越と次月繰越を記入すると解答のように仕掛品勘定が完成する。